

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	教会音楽実習II						
担当教員	奥村 正子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜5	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業のテーマ	チャペルの美しい響きを聞きつつ、様々な宗教的内容の画曲を美しく歌えるようにする 歌うための体と息の使い方に注目し、授業で学んだことによって「体が変わった」という実感が持てるように 初歩的な声楽アンサンブルを楽しむ						
授業の概要	①ルター派のコラール（ドイツ語・斉唱） ②2声～4声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など） ③美しく歌うための技術の習得 ④アンサンブルができる耳を養う 以上の4項目を並行して進めます						
到達目標	身体の使い方と息の流れを感じて歌えること 歌詞の意味を理解し、表現できること 他の人の声、全体の響きを聞きながら声を合わせてアンサンブルできること						
授業計画	<p>前期 第1回 ・受難のコラール その1 ・日本語の合唱曲（2声） その1 ・発声の基礎 立ち方①</p> <p>第2回 ・受難のコラール その2 ・日本語の合唱曲（2声） その2 ・発声の基礎 立ち方②</p> <p>第3回 ・受難のコラール その3 ・日本語の合唱曲（2声） その3 ・発声の基礎 腹式呼吸①</p> <p>第4回 ・受難のコラール その4 ・日本語の合唱曲（2声） その4 ・発声の基礎 腹式呼吸②</p> <p>第5回 ・受難のコラール その5 ・日本語の合唱曲（2声） その5 ・発声の基礎 腹式呼吸③</p> <p>第6回 ・復活のコラール その1 ・ラテン語の合唱曲（3声） その1 ・発声の基礎 重心①</p> <p>第7回 ・復活のコラール その2 ・ラテン語の合唱曲（3声） その2 ・発声の基礎 重心②</p> <p>第8回 ・復活のコラール その3 ・ラテン語の合唱曲（3声） その3 ・発声の基礎 腹筋と背筋①</p> <p>第9回 ・復活のコラール その4 ・ラテン語の合唱曲（3声） その4 ・発声の基礎 腹筋と背筋②</p> <p>第10回 ・復活のコラール その5 ・ラテン語の合唱曲（3声） その5 ・発声の基礎 腹筋と背筋③</p> <p>第11回 ・コラール(Allein Gott) その1 ・ラテン語の合唱曲（3～4声） その1</p>						

## 授業計画

- ・発声の基礎 背中面①
- 第12回
  - ・コラール(Allein Gott) その2
  - ・ラテン語の合唱曲(3~4声) その2
  - ・発声の基礎 背中面②
- 第13回
  - ・コラール(Allein Gott) その3
  - ・ラテン語の合唱曲(3~4声) その3
  - ・発声の基礎 体を開く①
- 第14回
  - ・コラール(Allein Gott) その4
  - ・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その4
  - ・発声の基礎 体を開く②
- 第15回
  - ・コラール(Allein Gott) その5
  - ・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その5
  - ・発声の基礎 体を開く③
- 後期
- 第1回
  - ・待降節のコラール その1
  - ・ポリフォニーの合唱曲 その1
  - ・発声の発展 筋肉の連携①
- 第2回
  - ・待降節のコラール その2
  - ・ポリフォニーの合唱曲 その2
  - ・発声の発展 筋肉の連携②
- 第3回
  - ・待降節のコラール その3
  - ・ポリフォニーの合唱曲 その3
  - ・発声の発展 筋肉の連携③
- 第4回
  - ・待降節のコラール その4
  - ・ポリフォニーの合唱曲 その4
  - ・発声の発展 横隔膜①
- 第5回
  - ・待降節のコラール その5
  - ・ポリフォニーの合唱曲 その5
  - ・発声の発展 横隔膜②
- 第6回
  - ・降臨節のコラール その1
  - ・降臨節の合唱曲 その1
  - ・発声の発展 横隔膜③
- 第7回
  - ・降臨節のコラール その2
  - ・降臨節の合唱曲 その2
  - ・発声の発展 顔面の響き①
- 第8回
  - ・降臨節のコラール その3
  - ・降臨節の合唱曲 その3
  - ・発声の発展 顔面の響き②
- 第9回
  - ・降臨節のコラール その4
  - ・待降節の合唱曲 その4
  - ・発声の発展 顔面の響き③
- 第10回
  - ・降臨節のコラール その5
  - ・降臨節の合唱曲 その5
  - ・発声の発展 体を響かせる①
- 第11回
  - ・コラール(Vater unser im Himmelreich)
  - ・ドイツ語の合唱曲 その1
  - ・発声の発展 体を響かせる②
- 第12回
  - ・コラール(Vater unser im Himmelreich)
  - ・ドイツ語の合唱曲 その2
  - ・発声の発展 体を響かせる③
- 第13回
  - ・コラール(Vater unser im Himmelreich)

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語の合唱曲 その3</li> <li>・発声の発展 声を離す①</li> </ul> <p>第14回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル(Vater unser im Himmelreich)</li> <li>・ドイツ語の合唱曲 その4</li> <li>・発声の発展 声を離す②</li> </ul> <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル(Vater unser im Himmelreich)</li> <li>・ドイツ語の合唱曲 その5</li> <li>・発声の発展 声を離す③</li> </ul>
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>外国語の楽曲については、歌詞の意味、発音の復習 与えられた楽曲の反復練習 日常的に身体の使い方と息に意識を向けること</p>
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語、ラテン語などについては、発音から丁寧に指導します。</li> <li>・楽曲の練習は講師のリードによって階名唱から始め、履修生で声を聞きあい、統一感のあるアンサンブルを目指して練習を重ねていきます</li> <li>・可能であれば履修生にOrg伴奏、模擬指揮者などを担当していただきます</li> </ul>
評価基準と評価方法	<p>授業への積極性など平常点で採点します 皆で楽曲を練習する実技の授業であるので、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし</p>
教科書	<p>その都度楽譜を配布する</p>
参考書	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	教会音楽実習IIA						
担当教員	奥村 正子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	チャペルの美しい響きを聞きつつ、様々な宗教的内容の楽曲を美しく歌えるようにする 歌うための体と息の使い方に注目し、授業で学んだことによって「体が変わった」という実感が持てるように 初歩的な声楽アンサンブルを楽しむ						
授業の概要	①ルター派のコラール（ドイツ語・斉唱） ②2声～4声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など） ③美しく歌うための技術の習得 ④アンサンブルができる耳を養う 以上の4項目を並行して進めます						
到達目標	身体の使い方と息の流れを感じて歌えること 歌詞の意味を理解し、表現できること 他の人の声、全体の響きを聞きながら声を合わせてアンサンブルできること						
授業計画	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受難のコラール その1</li> <li>・日本語の合唱曲（2声） その1</li> <li>・発声の基礎 立ち方①</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受難のコラール その2</li> <li>・日本語の合唱曲（2声） その2</li> <li>・発声の基礎 立ち方②</li> </ul> <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受難のコラール その3</li> <li>・日本語の合唱曲（2声） その3</li> <li>・発声の基礎 腹式呼吸①</li> </ul> <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受難のコラール その4</li> <li>・日本語の合唱曲（2声） その4</li> <li>・発声の基礎 腹式呼吸②</li> </ul> <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受難のコラール その5</li> <li>・日本語の合唱曲（2声） その5</li> <li>・発声の基礎 腹式呼吸③</li> </ul> <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復活のコラール その1</li> <li>・ラテン語の合唱曲（3声） その1</li> <li>・発声の基礎 重心①</li> </ul> <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復活のコラール その2</li> <li>・ラテン語の合唱曲（3声） その2</li> <li>・発声の基礎 重心②</li> </ul> <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復活のコラール その3</li> <li>・ラテン語の合唱曲（3声） その3</li> <li>・発声の基礎 腹筋と背筋①</li> </ul> <p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復活のコラール その4</li> <li>・ラテン語の合唱曲（3声） その4</li> <li>・発声の基礎 腹筋と背筋②</li> </ul> <p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復活のコラール その5</li> <li>・ラテン語の合唱曲（3声） その5</li> <li>・発声の基礎 腹筋と背筋③</li> </ul> <p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コラール(Allein Gott) その1</li> <li>・ラテン語の合唱曲（3～4声） その1</li> <li>・発声の基礎 背中面①</li> </ul>						

授業計画	<p>第12回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル(Allein Gott) その2</li> <li>・ラテン語の合唱曲(3~4声) その2</li> <li>・発声の基礎 背中面②</li> </ul> <p>第13回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル(Allein Gott) その3</li> <li>・ラテン語の合唱曲(3~4声) その3</li> <li>・発声の基礎 体を開く①</li> </ul> <p>第14回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル(Allein Gott) その4</li> <li>・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その4</li> <li>・発声の基礎 体を開く②</li> </ul> <p>第15回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラル(Allein Gott) その5</li> <li>・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その5</li> <li>・発声の基礎 体を開く③</li> </ul>
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>外国語の楽曲については、歌詞の意味、発音の復習 与えられた楽曲の反復練習 日常的に身体の使い方と息に意識を向けること</p>
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語、ラテン語などについては、発音から丁寧に指導します。</li> <li>・楽曲の練習は講師のリードによって階名唱から始め、履修生で声を聞きあい、統一感のあるアンサンブルを目指して練習を重ねていきます</li> <li>・可能であれば履修生にOrg伴奏、模擬指揮者などを担当していただきます</li> </ul>
評価基準と評価方法	<p>授業への積極性など平常点で採点します 皆で楽曲を練習する実技の授業であるので、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし</p>
教科書	<p>その都度楽譜を配布する</p>
参考書	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	教会音楽実習IIB						
担当教員	奥村 正子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	チャペルの美しい響きを聞きつつ、さまざまな宗教的内容の楽曲を美しく表現力裕に歌えるように練習を重ねます。また歌うための身体と息の使い方に注目し、1年間の学習で「体が変わった」という実感が持てることも目指します。						
授業の概要	①ルター派のコラール（ドイツ語・斉唱） ②2声～4声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など） ③美しく歌うための技術の習得 ④アンサンブルができる耳を養う 以上の4項目を並行して進めます						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの声を聞きつつ、楽しんで声楽アンサンブルの演奏ができること</li> <li>・ドイツ語、ラテン語などの正しい発音での歌唱</li> <li>・良い声は身体とつながっていることの実感を持つこと</li> <li>・歌詞の意味を的確に表現し演奏すること</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待降節のコラール その1</li> <li>・ポリフォニーの合唱曲 その1</li> <li>・発声の発展 筋肉の連携①</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待降節のコラール その2</li> <li>・ポリフォニーの合唱曲 その2</li> <li>・発声の発展 筋肉の連携②</li> </ul> <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待降節のコラール その3</li> <li>・ポリフォニーの合唱曲 その3</li> <li>・発声の発展 筋肉の連携③</li> </ul> <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待降節のコラール その4</li> <li>・ポリフォニーの合唱曲 その4</li> <li>・発声の発展 横隔膜①</li> </ul> <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待降節のコラール その5</li> <li>・ポリフォニーの合唱曲 その5</li> <li>・発声の発展 横隔膜②</li> </ul> <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降臨節のコラール その1</li> <li>・降臨節の合唱曲 その1</li> <li>・発声の発展 横隔膜③</li> </ul> <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降臨節のコラール その2</li> <li>・降臨節の合唱曲 その2</li> <li>・発声の発展 顔面の響き①</li> </ul> <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降臨節のコラール その3</li> <li>・降臨節の合唱曲 その3</li> <li>・発声の発展 顔面の響き②</li> </ul> <p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降臨節のコラール その4</li> <li>・待降節の合唱曲 その4</li> <li>・発声の発展 顔面の響き③</li> </ul> <p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降臨節のコラール その5</li> <li>・降臨節の合唱曲 その5</li> <li>・発声の発展 体を響かせる①</li> </ul> <p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コラール (Vater unser im Himmelreich)</li> <li>・ドイツ語の合唱曲 その1</li> <li>・発声の発展 体を響かせる②</li> </ul>						

授業計画	<p>第12回          ・コーラル (Vater unser im Himmelreich)          ・ドイツ語の合唱曲 その2          ・発声の発展 体を響かせる③</p> <p>第13回          ・コーラル (Vater unser im Himmelreich)          ・ドイツ語の合唱曲 その3          ・発声の発展 声を離す①</p> <p>第14回          ・コーラル (Vater unser im Himmelreich)          ・ドイツ語の合唱曲 その4          ・発声の発展 声を離す②</p> <p>第15回          ・コーラル (Vater unser im Himmelreich)          ・ドイツ語の合唱曲 その5          ・発声の発展 声を離す③</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	外国語の曲の場合は、正しい発音、言葉の意味を反芻すること 与えられた楽曲の反復練習
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語、ラテン語などについては、発音から丁寧に指導します。</li> <li>・楽曲の練習は講師のリードによって階名唱から始め、履修生で声を聞きあい、統一感のあるアンサンブルを目指して練習を重ねていきます</li> <li>・可能であれば履修生にOrg伴奏、模擬指揮者などを担当していただきます</li> </ul>
評価基準と評価方法	授業への積極性など平常点で採点します 皆で楽曲を練習する実技の授業であるので、欠席はすなわち練習回数の減数となる 欠席は減点の対象となるので注意されたし
教科書	その都度楽譜を配布する
参考書	

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学Ⅰ						
担当教員	市川 哲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教、特に聖書の信仰について理解を深め、また文化としてのキリスト教、という側面にも触れる機会を持つ。						
授業の概要	<p>この「キリスト教学Ⅰ」は、必修科目として開設されています。キリスト教の精神に基いて建てられた松蔭女子学院の使命として、学生がキリスト教思想に触れ、その精神を理解することが願われているからです。</p> <p>この講義の中で扱う内容として、以下の3点が挙げられます。</p> <p>① キリスト教信仰の目的とは何か。聖書に込められている精神とはなにか。これらについて、特に文化的な視点で捉える。</p> <p>② 文学・芸術の中に見られるキリスト教の影響。</p> <p>③ キリスト教周辺の宗教の問題。特に“破壊的カルト”の危険性についての知識。</p> <p>この講義は、キリスト教の伝道（布教）を目的とするものではありません。しかし、ある特定の思想を学ぶ際に、それ自体についての基礎的な知識をもつことは大切です。試験ではその点についても、評価の対象とします。</p>						
到達目標	キリスト教という、近代社会の形成の上で重要な役割を果たした一つの価値観、そして欧米の文化の重要な要素としての宗教を理解することは、国際性を身に付ける上でも、また今自分の属する現代社会の把握や関わり方を見つめなおすことでも、大きな意味があります。そのための助けとなることができると思います。						
授業計画	<p>15回の内容を示します。ただし、休講による補講の都合等によって、順番入れ替え、一部内容変更の可能性がります。その場合は毎回講義時間中にお知らせします。また、毎回の講義の最初には「文学」または「うた」について短く紹介する講義を行ないます。</p> <p>第1回 キリスト教とは（ガイダンス）、聖書とはどのような書物かⅠ</p> <p>第2回 聖書とはどのような書物かⅡ、イエス・キリストの生涯</p> <p>第3回 イエスの福音Ⅰ 悪霊</p> <p>第4回 イエスの福音Ⅱ 病気直し</p> <p>第5回 イエスの福音Ⅲ たとえ話</p> <p>第6回 イエスの福音Ⅳ 「いと小さきもの」への視座</p> <p>第7回 イエスの福音Ⅴ 律法との対決</p> <p>第8回 イエスの受難、復活</p> <p>第9回 イエスの昇天から初代教会、教会の分裂と一致</p> <p>第10回 旧約聖書の時代史Ⅰ バビロン捕囚を基点として</p> <p>第11回 旧約聖書の時代史Ⅱ イスラエル共同体の成立</p> <p>第12回 アドベントとクリスマス、キリスト教と音楽</p> <p>第13回 神戸のキリスト教と阪神・淡路大震災</p> <p>第14回 旧約聖書の時代史Ⅲ 捕囚以降</p> <p>第15回 破壊的カルトについて</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。ただし小レポートを課すことあり。						
授業方法	講義に加え、授業時間中に小レポートを記述、提出することもあります。						
評価基準と評価方法	<p>期間を通し、100点満点での加点式で評価をおこないます。合計点が100点を超えた場合は、100点とします。なお平均点を75点程度にする必要があります（教務からの指示）。そのため受講者の不利益にならない程度で点数調整する場合があります。</p> <p>出席については、講義期間全体のうち半数の出席が必要とします（補講・試験を除く）。ただし、出席日数を点数に換算することはありません。</p> <p>点数内訳 ① 小レポート（5点×5 + <math>\alpha</math>） 期間内に5回以上、適宜講義時間中に感想等を述べたり、課題に回答するレポートを課します。</p> <p>② 論文 または 定期試験（75点） 論文：期間内に1回、論文の課題を出します。テーマ・期限等は5月上旬ごろに示します。 定期試験：期末に試験をおこないます。問題の一部は、講義時間中に発表します。 論文と定期試験は選択です。両方とも受けた場合は、点数の高い方を採用します。期限は論文の方が早くなる予定です。状況を見て自分で判断してください。</p> <p>③ 教会出席レポート（15点） これまで教会の礼拝に出席の経験がある人に限定とします。あらかじめ出席教会の登録が必要です。詳しくは別紙参照。</p> <p>④ 文献紹介（15点） 論文と別に、課題としてあげた書籍からひとつを選び、内容および感</p>						



評価基準と 評価方法	想を記していただきます。書名・期限等は、論文と同じ時に示します。  各課題の全部を提出する必要はありません。単位の取得のため必要な課題を自分で選択してください。ただし、論文は負担の割合が高いため、指示をきちんと守って提出すれば、あまり減点をすることはありません。提出は原則的に講義時間とします。なお、提出期限に遅れた場合は大幅に減点しますが、0点とはしません。あきらめずに努力してください。
教科書	『聖書』（旧新約聖書）を毎回の講義に持参してください。聖書は多種類の日本語訳が発行されています。キリスト教以外の団体の発行した一部のものを除き、どの訳でもかまいません。まだ持っていない人は、『聖書・新共同訳』（日本聖書協会、旧約統編なし）を購入してください。
参考書	参考書は、講義中に必要な都度お知らせします。いずれも購入義務はありません。

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	市川 哲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教、特に聖書の信仰について理解を深め、また文化としてのキリスト教、という側面にも触れる機会を持つ。						
授業の概要	<p>この「キリスト教学I」は、必修科目として開設されています。キリスト教の精神に基いて建てられた松蔭女子学院の使命として、学生がキリスト教思想に触れ、その精神を理解することが願われているからです。</p> <p>この講義の中で扱う内容として、以下の3点が挙げられます。</p> <p>① キリスト教信仰の目的とは何か。聖書に込められている精神とはなにか。これらについて、特に文化的な視点で捉える。</p> <p>② 文学・芸術の中に見られるキリスト教の影響。</p> <p>③ キリスト教周辺の宗教の問題。特に“破壊的カルト”の危険性についての知識。</p> <p>この講義は、キリスト教の伝道（布教）を目的とするものではありません。しかし、ある特定の思想を学ぶ際に、それ自体についての基礎的な知識をもつことは大切です。試験ではその点についても、評価の対象とします。</p>						
到達目標	キリスト教という、近代社会の形成の上で重要な役割を果たした一つの価値観、そして欧米の文化の重要な要素としての宗教を理解することは、国際性を身に付ける上でも、また今自分の属する現代社会の把握や関わり方を見つめなおすことでも、大きな意味があります。そのための助けとなることができると思います。						
授業計画	<p>15回の内容を示します。ただし、休講による補講の都合等によって、順番入れ替え、一部内容変更の可能性があります。その場合は毎回講義時間中にお知らせします。また、毎回の講義の最初には「文学」または「うた」について短く紹介する講義を行いません。</p> <p>第1回 キリスト教とは（ガイダンス）、聖書とはどのような書物かⅠ</p> <p>第2回 聖書とはどのような書物かⅡ、イエス・キリストの生涯</p> <p>第3回 イエスの福音Ⅰ 悪霊</p> <p>第4回 イエスの福音Ⅱ 病気直し</p> <p>第5回 イエスの福音Ⅲ たとえ話</p> <p>第6回 イエスの福音Ⅳ 「いと小さきもの」への視座</p> <p>第7回 イエスの福音Ⅴ 律法との対決</p> <p>第8回 イエスの受難、復活</p> <p>第9回 イエスの昇天から初代教会、教会の分裂と一致</p> <p>第10回 旧約聖書の時代史Ⅰ バビロン捕囚を基点として</p> <p>第11回 旧約聖書の時代史Ⅱ イスラエル共同体の成立</p> <p>第12回 アドベントとクリスマス、キリスト教と音楽</p> <p>第13回 神戸のキリスト教と阪神・淡路大震災</p> <p>第14回 旧約聖書の時代史Ⅲ 捕囚以降</p> <p>第15回 破壊的カルトについて</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。ただし小レポートを課すことあり。						
授業方法	講義に加え、授業時間中に小レポートを記述、提出することもあります。						
評価基準と評価方法	<p>期間を通し、100点満点での加点式で評価をおこないます。合計点が100点を超えた場合は、100点とします。なお平均点を75点程度にする必要があります（教務からの指示）。そのため受講者の不利益にならない程度で点数調整する場合があります。</p> <p>出席については、講義期間全体のうち半数の出席が必要とします（補講・試験を除く）。ただし、出席日数を点数に換算することはありません。</p> <p>点数内訳 ① 小レポート（5点×5 + <math>\alpha</math>） 期間内に5回以上、適宜講義時間中に感想等を述べたり、課題に回答するレポートを課します。</p> <p>② 論文 または 定期試験（75点） 論文：期間内に1回、論文の課題を出します。テーマ・期限等は5月上旬ごろに示します。 定期試験：期末に試験をおこないます。問題の一部は、講義時間中に発表します。 論文と定期試験は選択です。両方とも受けた場合は、点数の高い方を採用します。期限は論文の方が早くなる予定です。状況を見て自分で判断してください。</p> <p>③ 教会出席レポート（15点） これまで教会の礼拝に出席の経験がある人に限定とします。あらかじめ出席教会の登録が必要です。詳しくは別紙参照。</p> <p>④ 文献紹介（15点） 論文と別に、課題としてあげた書籍からひとつを選び、内容および感</p>						

評価基準と 評価方法	想を記していただきます。書名・期限等は、論文と同じ時に示します。  各課題の全部を提出する必要はありません。単位の取得のため必要な課題を自分で選択してください。ただし、論文は負担の割合が高いため、指示をきちんと守って提出すれば、あまり減点をすることはありません。提出は原則的に講義時間とします。なお、提出期限に遅れた場合は大幅に減点しますが、0点とはしません。あきらめずに努力してください。
教科書	『聖書』（旧新約聖書）を毎回の講義に持参してください。聖書は多種類の日本語訳が発行されています。キリスト教以外の団体の発行した一部のものを除き、どの訳でもかまいません。まだ持っていない人は、『聖書・新共同訳』（日本聖書協会、旧約統編なし）を購入してください。
参考書	参考書は、講義中に必要な都度お知らせします。いずれも購入義務はありません。

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	勝村 弘也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教を知る――キリスト教概論						
授業の概要	本授業は「キリスト教を知る――キリスト教概論」というテーマに基づいて、聖書やキリスト教の歴史ならびに文化を講じ、キリスト教の概論的知識を身につけた上で、新約聖書の福音書を読み進めながら、イエスの教えと生涯に焦点を当てて授業を進めていきます。						
到達目標	聖書の成り立ちと内容、キリスト教の歴史や文化、そしてイエスの教えと生涯を知ることを通して、本学の建学の精神であるキリスト教に触れ、それと同時にキリスト教と聖書を学問的に「知る」ことによって、西洋の思想、歴史、文化等を理解する基礎を養うことができるようになります。						
授業計画	1回目 オリエンテーション：講義の形式と内容、成績評価方法の説明、宗教としてのキリスト教、その特徴 2回目 ユダヤ教とキリスト教（創世記1章、レビ記19章） 3回目 聖書の内容、その1。モーセの十戒（出エジプト記20章、申命記6章） 4回目 聖書の内容、その2。福音書（マルコ福音書1章、ヨハネ福音書13章）、手紙 5回目 聖書に関する小テスト、キリスト教の歴史 6回目 イエスの生涯、主イエスの祈り（マタイ福音書6章5－15節） 7回目 イエスの教え（1）（マタイ福音書5－7章） 8回目 イエスの教え（2）（ルカ福音書10章25－37節）、レポートの課題発表 9回目 芸術を通して知るキリスト教 10回目 イエスの教え（3）、レポート提出 11回目 イエスの誕生の物語（1）（ルカ福音書1－2章） 12回目 イエスの誕生の物語（2）（マタイ福音書1－2章） 13回目 イエスの受難（1）（マルコ福音書14－15章） 14回目 イエスの受難（2）、試験 15回目 授業のまとめ、試験答案返却						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画で聖書箇所が挙げられているときには、その聖書を事前に読んできてください。 授業後学習：配布プリントをそこで挙げられている聖書テキストに当たりながら丁寧に読み返し、興味ある内容に出会ったときには、プリントの最後に列挙している参考文献を読んで、さらに学びを深めてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点40パーセント、定期試験60パーセント						
教科書	『聖書 新共同訳（旧約聖書続編つき）』日本聖書協会、1987年。 上記に挙げた聖書を用意してください。聖書には大型、中型、小型、およびハンディタイプなどがありますので自分の用途に合わせて購入してください。第1回目の授業で用意する聖書の詳細について説明します。						
参考書	毎回の授業で配布するプリント（レジュメ）に参考書や必読書を参考文献として提示します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	近藤 剛						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教の基礎知識						
授業の概要	本講義ではキリスト教の基礎知識（旧約聖書ダイジェスト、新約聖書ダイジェスト、イエス・キリストの生涯、キリスト教史ダイジェストなど）を提供します。また、キリスト教思想のエッセンスを今日の文脈において再解釈しつつ論じます。						
到達目標	到達目標は、神戸松蔭の建学の精神を学問的なキリスト教の知識に基づいて説明できるようになることです。						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:現代社会とキリスト教 第3回:旧約聖書ダイジェスト (1) 天地創造の神話 第4回:旧約聖書ダイジェスト (2) イスラエル民族の興亡 第5回:旧約聖書ダイジェスト (3) 救世主の待望 第6回:新約聖書ダイジェスト (1) 新約聖書成立の謎 第7回:新約聖書ダイジェスト (2) イエス・キリストの生涯 第8回:新約聖書ダイジェスト (3) イエス・キリストの思想 第9回:キリスト教史ダイジェスト (1) 古代ローマ帝国とキリスト教 第10回:キリスト教史ダイジェスト (2) 中世における教皇権の伸長と衰退 第11回:キリスト教史ダイジェスト (3) ローマ教皇列伝 第12回:キリスト教史ダイジェスト (4) 宗教改革とヨーロッパ近代 第13回:キリスト教史ダイジェスト (5) イギリス宗教改革とデモクラティズム 第14回:キリスト教史ダイジェスト (6) 日本のキリスト教と武士道 第15回:まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回のレジュメの見直し 授業後学習：新たに配られたレジュメの見直し						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験70%、レポート等平常点30%						
教科書	プリントを配布します。『聖書』の購入については、初回の講義において説明します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	近藤 剛						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教の基礎知識						
授業の概要	本講義ではキリスト教の基礎知識（旧約聖書ダイジェスト、新約聖書ダイジェスト、イエス・キリストの生涯、キリスト教史ダイジェストなど）を提供します。また、キリスト教思想のエッセンスを今日の文脈において再解釈しつつ論じます。						
到達目標	到達目標は、神戸松蔭の建学の精神を学問的なキリスト教の知識に基づいて説明できるようになることです。						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:現代社会とキリスト教 第3回:旧約聖書ダイジェスト (1) 天地創造の神話 第4回:旧約聖書ダイジェスト (2) イスラエル民族の興亡 第5回:旧約聖書ダイジェスト (3) 救世主の待望 第6回:新約聖書ダイジェスト (1) 新約聖書成立の謎 第7回:新約聖書ダイジェスト (2) イエス・キリストの生涯 第8回:新約聖書ダイジェスト (3) イエス・キリストの思想 第9回:キリスト教史ダイジェスト (1) 古代ローマ帝国とキリスト教 第10回:キリスト教史ダイジェスト (2) 中世における教皇権の伸長と衰退 第11回:キリスト教史ダイジェスト (3) ローマ教皇列伝 第12回:キリスト教史ダイジェスト (4) 宗教改革とヨーロッパ近代 第13回:キリスト教史ダイジェスト (5) イギリス宗教改革とデモクラティズム 第14回:キリスト教史ダイジェスト (6) 日本のキリスト教と武士道 第15回:まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回のレジュメの見直し 授業後学習：新たに配られたレジュメの見直し						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験70%、レポート等平常点30%						
教科書	プリントを配布します。『聖書』の購入については、初回の講義において説明します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の誕生物語、生涯と教えについて聖書を通して学びます。イエス・キリストを歴史的な文脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。						
到達目標	旧新約聖書を基にして、イエス・キリストとその時代に関する基本的な知識を習得します。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 キリスト教とは何か：歴史と現在  第3回 キリスト教とは何か：福音と信仰  第4回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人  第5回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教  第6回 イエスの世界（3）：ヘブライ語聖書  第7回 イエスを知るには（1）：新約聖書  第8回 イエスを知るには（2）：福音書  第9回 イエスの誕生物語（1）  第10回 イエスの誕生物語（2）  第11回 イエスの生涯（1）：受難と十字架  第12回 イエスの生涯（2）：宣教活動  第13回 イエスの生涯（3）：「愛」について  第14回 イエスの復活と復活信仰  第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。新約聖書中の4つの福音書の通読。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合があります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会） ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。						
参考書	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の誕生物語、生涯と教えについて聖書を通して学びます。イエス・キリストを歴史的な文脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。						
到達目標	旧新約聖書を基にして、イエス・キリストとその時代に関する基本的な知識を習得します。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 キリスト教とは何か：歴史と現在  第3回 キリスト教とは何か：福音と信仰  第4回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人  第5回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教  第6回 イエスの世界（3）：ヘブライ語聖書  第7回 イエスを知るには（1）：新約聖書  第8回 イエスを知るには（2）：福音書  第9回 イエスの誕生物語（1）  第10回 イエスの誕生物語（2）  第11回 イエスの生涯（1）：受難と十字架  第12回 イエスの生涯（2）：宣教活動  第13回 イエスの生涯（3）：「愛」について  第14回 イエスの復活と復活信仰  第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。新約聖書中の4つの福音書の通読。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合があります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会） ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。						
参考書	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。						



科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の誕生物語、生涯と教えについて聖書を通して学びます。イエス・キリストを歴史的な文脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。						
到達目標	旧新約聖書を基にして、イエス・キリストとその時代に関する基本的な知識を習得します。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 キリスト教とは何か：歴史と現在  第3回 キリスト教とは何か：福音と信仰  第4回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人  第5回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教  第6回 イエスの世界（3）：ヘブライ語聖書  第7回 イエスを知るには（1）：新約聖書  第8回 イエスを知るには（2）：福音書  第9回 イエスの誕生物語（1）  第10回 イエスの誕生物語（2）  第11回 イエスの生涯（1）：受難と十字架  第12回 イエスの生涯（2）：宣教活動  第13回 イエスの生涯（3）：「愛」について  第14回 イエスの復活と復活信仰  第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。新約聖書中の4つの福音書の通読。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合があります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会） ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。						
参考書	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の誕生物語、生涯と教えについて聖書を通して学びます。イエス・キリストを歴史的な文脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。						
到達目標	旧新約聖書を基にして、イエス・キリストとその時代に関する基本的な知識を習得します。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 キリスト教とは何か：歴史と現在  第3回 キリスト教とは何か：福音と信仰  第4回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人  第5回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教  第6回 イエスの世界（3）：ヘブライ語聖書  第7回 イエスを知るには（1）：新約聖書  第8回 イエスを知るには（2）：福音書  第9回 イエスの誕生物語（1）  第10回 イエスの誕生物語（2）  第11回 イエスの生涯（1）：受難と十字架  第12回 イエスの生涯（2）：宣教活動  第13回 イエスの生涯（3）：「愛」について  第14回 イエスの復活と復活信仰  第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。新約聖書中の4つの福音書の通読。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合があります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	聖書（新共同訳、旧約続編付き）（日本聖書協会） ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。						
参考書	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、本学の建学精神の土台であるキリスト教への入門です。イエス・キリストに焦点を当て、彼の誕生物語、生涯と教えについて聖書を通して学びます。イエス・キリストを歴史的な文脈で理解する助けとして、彼を取り巻く時代環境やヘブル語聖書（旧約聖書）についても概観する予定です。						
到達目標	旧新約聖書を基にして、イエス・キリストとその時代に関する基本的な知識を習得します。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 キリスト教とは何か：歴史と現在  第3回 キリスト教とは何か：福音と信仰  第4回 イエスの世界（1）：ユダヤとユダヤ人  第5回 イエスの世界（2）：ユダヤ人の宗教  第6回 イエスの世界（3）：ヘブライ語聖書  第7回 イエスを知るには（1）：新約聖書  第8回 イエスを知るには（2）：福音書  第9回 イエスの誕生物語（1）  第10回 イエスの誕生物語（2）  第11回 イエスの生涯（1）：受難と十字架  第12回 イエスの生涯（2）：宣教活動  第13回 イエスの生涯（3）：「愛」について  第14回 イエスの復活と復活信仰  第15回 まとめと試験</p> <p>注意：以上は予定ですので、変更となる場合もあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に言及する聖書箇所を熟読玩味すること。新約聖書中の4つの福音書の通読。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	主に試験と平常点によって評価します（試験70%、平常点30%の予定）。試験は期末試験が主ですが、学期半ばに小テスト（または小レポート）を課する場合があります。遅刻と欠席は減点対象となります。また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	聖書（新共同訳、旧約統編付き）（日本聖書協会） ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。						
参考書	授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	横山 順一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	聖書の言葉に触れる—キリスト教概論						
授業の概要	聖書の言葉に触れる事を通して、まず可能な限り自分で考え、理解し、自分の言葉で語る体験を積み重ねます。そこに生まれる興味・関心をキリスト教一般知識と絡め、各自の更なる学究へつなげたいと思います。						
到達目標	聖書からの学びによって旧約・新約それぞれに流れる教えや示唆、神と人間理解を深め、適宜に聖書の成り立ち、キリスト教の歴史や文化を取り混ぜ、「聖書」という「本」への興味を発見することによって、キリスト教に対する理解の基礎が固まります。						
授業計画	1回目 出会い オリエンテーション 聖書の成り立ち（マタイ福音書1:1~17） 2回目 人間とは何かⅠ アダムとエバ（創世記1:27~31、3:1~19） 3回目 人間とは何かⅡ ノア（創世記9:1~17、11:1~9） 4回目 神と共に生きるⅠ アブラハム（創世記12:1~9、24:62~67） 5回目 神と共に生きるⅡ ヤコブ、ヨセフ（創世記25:19~26、32:23~33、45:1~14） 6回目 神と共に生きるⅢ モーセ、サムエル（主エジプト記1章、サムエル記上1章） 7回目 神と共に生きるⅣ ダビデ、ソロモン（詩編51章、列王記上3章） 8回目 人と共に生きるⅠ イエス 生命観（ルカ福音書2:1~20、マルコ福音書2:1~12） 9回目 人と共に生きるⅡ イエス 共感と招き（ルカ福音書17:11~19、マルコ福音書2:13~17） 10回目 人と共に生きるⅢ イエス 人間の可能性（ヨハネ福音書6:1~14、マタイ福音書16:16~30） 11回目 人と共に生きるⅣ イエス 復活の意味（ルカ福音書19:1~10、マルコ福音書16章） 12回目 私たちはどう生きるかⅠ 友、隣人（マタイ福音書20:1~16、ルカ福音書10:25~37） 13回目 私たちはどう生きるかⅡ 自由、実存（マタイ福音書18:10~14、ルカ福音書11:1~13） 14回目 試験、キリスト教の儀式と礼典 パウロ（創世記2:18~25、使徒言行録9:1~19） 15回目 聖書の豊かさ、まとめ、試験に対するフィードバック（使徒言行録2:1~13）						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：聖書箇所を事前に読んで来て下さい。可能なら当該箇所の前後も。 授業後学習：聖書箇所のキーワードを選んで下さい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	通常評価 40%、定期試験評価 60%。						
教科書	1. 『聖書 新共同訳（旧約聖書続編つき）』日本聖書協会、1987年。 上記に挙げた聖書を用意してください。聖書には大型、中型、小型、およびハンディタイプなどがありますので自分の用途に合わせて購入してください。第1回目の授業で用意する聖書の詳細について説明します。 2. 配布プリント（レジュメ）。 毎回授業時にプリント（レジュメ）を配布し、そのプリント（レジュメ）に基づいて授業を進めます。なお、授業において配布するプリント（レジュメ）は試験に持ち込めますので、授業中に担当者から指示のあった内容や各自が重要だと判断したことをメモに取り、自分のプリントを復習のために精読すれば、キリスト教学Iの重要な学習になると同時に、それがそのまま試験対策にもなります。						
参考書	授業で配布するプリント（レジュメ）に参考書や必読書を参考文献として随時提示します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学I						
担当教員	横山 順一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	聖書の言葉に触れる—キリスト教概論						
授業の概要	聖書の言葉に触れる事を通して、まず可能な限り自分で考え、理解し、自分の言葉で語る体験を積み重ねます。そこに生まれる興味・関心をキリスト教一般知識と絡め、各自の更なる学究へつなげたいと思います。						
到達目標	聖書からの学びによって旧約・新約それぞれに流れる教えや示唆、神と人間理解を深め、適宜に聖書の成り立ち、キリスト教の歴史や文化を取り混ぜ、「聖書」という「本」への興味を発見することによって、キリスト教に対する理解の基礎が固まります。						
授業計画	1回目 出会い オリエンテーション 聖書の成り立ち（マタイ福音書1:1~17） 2回目 人間とは何かⅠ アダムとエバ（創世記1:27~31、3:1~19） 3回目 人間とは何かⅡ ノア（創世記9:1~17、11:1~9） 4回目 神と共に生きるⅠ アブラハム（創世記12:1~9、24:62~67） 5回目 神と共に生きるⅡ ヤコブ、ヨセフ（創世記25:19~26、32:23~33、45:1~14） 6回目 神と共に生きるⅢ モーセ、サムエル（主エジプト記1章、サムエル記上1章） 7回目 神と共に生きるⅣ ダビデ、ソロモン（詩編51章、列王記上3章） 8回目 人と共に生きるⅠ イエス 生命観（ルカ福音書2:1~20、マルコ福音書2:1~12） 9回目 人と共に生きるⅡ イエス 共感と招き（ルカ福音書17:11~19、マルコ福音書2:13~17） 10回目 人と共に生きるⅢ イエス 人間の可能性（ヨハネ福音書6:1~14、マタイ福音書16:16~30） 11回目 人と共に生きるⅣ イエス 復活の意味（ルカ福音書19:1~10、マルコ福音書16章） 12回目 私たちはどう生きるかⅠ 友、隣人（マタイ福音書20:1~16、ルカ福音書10:25~37） 13回目 私たちはどう生きるかⅡ 自由、実存（マタイ福音書18:10~14、ルカ福音書11:1~13） 14回目 試験、キリスト教の儀式と礼典 パウロ（創世記2:18~25、使徒言行録9:1~19） 15回目 聖書の豊かさ、まとめ、試験に対するフィードバック（使徒言行録2:1~13）						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：聖書箇所を事前に読んで来て下さい。可能なら当該箇所の前後も。 授業後学習：聖書箇所のキーワードを選んで下さい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	通常評価 40%、定期試験評価 60%。						
教科書	1. 『聖書 新共同訳（旧約聖書続編つき）』日本聖書協会、1987年。 上記に挙げた聖書を用意してください。聖書には大型、中型、小型、およびハンディタイプなどがありますので自分の用途に合わせて購入してください。第1回目の授業で用意する聖書の詳細について説明します。 2. 配布プリント（レジュメ）。 毎回授業時にプリント（レジュメ）を配布し、そのプリント（レジュメ）に基づいて授業を進めます。なお、授業において配布するプリント（レジュメ）は試験に持ち込めますので、授業中に担当者から指示のあった内容や各自が重要だと判断したことをメモに取り、自分のプリントを復習のために精読すれば、キリスト教学Iの重要な学習になると同時に、それがそのまま試験対策にもなります。						
参考書	授業で配布するプリント（レジュメ）に参考書や必読書を参考文献として随時提示します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-10/キリスト教史II/（歴史と文化）						
担当教員	近藤 剛						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	宗教国家アメリカの形成と発展						
授業の概要	本講義では、キリスト教史の観点から、アメリカの歴史（建国事情から現代まで）と文化を読み解きます。また、アメリカの時事問題についても言及し、受講生に読解の手がかりを与えます。						
到達目標	到達目標は、宗教国家という観点からアメリカの本質を知ること、講義を通してアメリカの特徴を知り、日米関係の在り方を考察できるようになることです。						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:アメリカ・キリスト教史 (1) 宗教国家アメリカの胎動 第3回:アメリカ・キリスト教史 (2) ピルグリム・ファーザーズ 第4回:アメリカ・キリスト教史 (3) 大覚醒 第5回:アメリカ・キリスト教史 (4) マニフェスト・ディスティニー 第6回:アレクシス・ド・トクヴィルのアメリカ論 (1) 文化と宗教 第7回:アレクシス・ド・トクヴィルのアメリカ論 (2) キリスト教とデモクラシー 第8回:アメリカの選民思想 第9回:アメリカのキリスト教原理主義 (1) モンキートライアル 第10回:アメリカのキリスト教原理主義 (2) 妊娠中絶・同性愛の問題 第11回:大統領とキリスト教 (1) 政策と宗教 第12回:大統領とキリスト教 (2) 選挙と宗教 第13回:アメリカの国家戦略とイスラエル・ロビー 第14回:パトリック・ブキャナン『超大国の自殺』のインパクト 第15回:まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回のレジュメの見直し 授業後学習：新たに配布されたレジュメの見直し						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験70%、レポート等平常点30%						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-11/キリスト教と文化4/（歴史と文化）						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	ハリー・ポッターとキリスト教						
授業の概要	J・K・ローリング著の『ハリー・ポッター』シリーズ全7巻は魔術の世界を舞台としているために第1巻発表以来キリスト者間で大きな論争を引き起こしてきた。その一方で、この作品にはキリスト教の世界観・価値観が強く影響している点もしばしば指摘されている。本講座では『ハリー・ポッター』におけるキリスト教的諸要素を吟味検討することによって、キリスト教の知識がこの極めて複雑な作品を一層深く理解する助けとなることを示す共に、現代世俗社会におけるキリスト教信仰の意義も考えていく。						
到達目標	「ハリー・ポッター」に認められるキリスト教の影響を理解する。						
授業計画	<p>第1週 オリエンテーション  第2週 著者J. K. ローリング  第3週 J. K. ローリングと『ハリー・ポッター』シリーズ  第4週 『ハリー・ポッター』論争とキリスト教（1）  第5週 『ハリー・ポッター』論争とキリスト教（2）  第6週 西欧史における錬金術と魔術（1）  第7週 西欧史における錬金術と魔術（2）  第8週 『ハリー・ポッター』における「神」  第9週 『ハリー・ポッター』の中心的問い  第10週 悪について：悪の起源と社会  第11週 悪について：悪への応答と悪の意味  第12週 「選ばれた者」ハリー（1）：ハリーとヴォルデモート  第13週 「選ばれし者」ハリー（2）：ハリーとイエス  第14週 『ハリー・ポッター』と倫理的諸問題  第15週 まとめ</p> <p>注意：以上は予定です。変更となる可能性もあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	小説ないし映画にて「ハリー・ポッター」シリーズ全体に眼を通すこと（履修前にすませておくことが望ましい）。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポートおよび平常点により評価する（レポート70%、平常点30%の予定）。欠席・遅刻は減点の対象とし、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響する。						
教科書	特になし						
参考書	J・K・ローリング著『ハリー・ポッター』シリーズ全7巻（静山社） 旧新約聖書						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-13／キリスト教学II／（現代社会とキリスト教）						
担当教員	宮本 憲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代キリスト教の諸側面						
授業の概要	<p>長い間ヨーロッパ中心に発展してきたキリスト教は、近代の海外宣教運動の結果、世界各地に根を下ろし、今や文字通りの「世界宗教」となりました。今日では、キリスト教の重心は西洋から非西洋世界に移動し、半世紀前までは欧米「キリスト教世界」の宗教であったキリスト教に代わって「世界キリスト教」が出現しつつあります。</p> <p>本講座では、このような変容しつつある今日のキリスト教の諸側面を、歴史的・異文化間的観点も交えて考察することによって現代社会におけるキリスト教の有り様に対する理解を深めることを目的としています。特に（1）今日のキリスト教の多様性、（2）キリスト教グローバル化の歴史と現在、（3）キリスト教の霊性、といった問題に注目しつつ講義を進めます。</p>						
到達目標	現代の多様なキリスト教を理解する視点を養うこと。						
授業計画	<p>第1週 序論：キリスト教史概観</p> <p>■キリスト教の多様性  第2週 オリエンタル正教会と東方正教会  第3週 ローマ・カトリック教会  第4週 プロテスタント諸派（1）大陸系諸教会  第5週 プロテスタント諸派（2）アングロサクソン系諸教会  第6週 エキュメニカル運動概観</p> <p>■キリスト教のグローバル化  第7週 ローマ・カトリックの海外宣教運動  第8週 近代プロテスタント海外宣教運動  第9週 日本におけるキリスト教の受容  第10週 日本にキリスト教をもたらした人々</p> <p>■現代キリスト教と霊性の復興  第11週 キリスト教霊性とは  第12週 ナウエン「アダム」を読む（1）  第13週 ナウエン「アダム」を読む（2）  第14週 ナウエン「アダム」を読む（3）</p> <p>第15週 まとめ：キリスト教の現在</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書に指定したナウエン著『アダム』を読むこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート（複数）および平常点により評価します（レポート70%、平常点30%の予定）。欠席・遅刻は減点の対象とし、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。詳細は初回の授業で説明します。						
教科書	ヘンリ・ナウエン『アダム—神の愛する子』（宮本憲訳、聖公会出版）						
参考書	聖書 その他、授業中に紹介します。						



科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-14／キリスト教学II／（現代社会とキリスト教）						
担当教員	近藤 剛						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キーワードで読み解くキリスト教						
授業の概要	キリスト教のエッセンスを各キーワードに応じて講義します。他の宗教をはじめ、神話、歴史、哲学、思想、文学、芸術といった広範囲にわたる話題を提供します。受講生には、本学の建学の精神に深く関わるキリスト教思想の内容を習得してもらうとともに、広く人文科学の方法論や総合知の重要性についても学習してもらいます。教科書の内容に従って講義を進めますので、必ず購入しておいて下さい。						
到達目標	到達目標は、様々な事例を通して、現代社会におけるキリスト教の意味を考察できるようになることです。						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:キーワード①「罪」—失楽園という自由のドラマ 第3回:キーワード②「悪」—神を信じるがゆえの苦しみ 第4回:キーワード③「死」—〈終活〉に備えて 第5回:キーワード④「信仰」—信仰は質より量!? 第6回:キーワード⑤「愛」—この不自然な感情 第7回:キーワード⑥「癒し」—救済は治癒である 第8回:キーワード⑦「寛容」 (1) —不寛容なキリスト教 第9回:キーワード⑦「寛容」 (2) —寛容の合法的制度化とデモクラシー 第10回:キーワード⑧「正義」—正義の実りである平和 第11回:キーワード⑨「地獄」 (1) —地獄への畏怖と応報の秩序 第12回:キーワード⑨「地獄」 (2) —ダンテ『神曲』と地獄の地理学 第13回:キーワード⑩「自殺」—人間の特権としての自殺? 第14回:キーワード⑪「職業」—転職より天職を求めて 第15回:まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回のレジュメの見直し 授業後学習：新たに配られたレジュメの見直し						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験70%、レポート等平常点30%						
教科書	『キリスト教思想断想』、近藤剛、ナカニシヤ出版（2013年3月出版予定）						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-16／キリスト教学II／（現代社会とキリスト教）						
担当教員	市川 哲						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会の中でキリスト教との関わりの重要ないくつかの点について考察する。						
授業の概要	<p>「キリスト教学II」は、概論である「キリスト教学I」の先にある選択科目として、さらに詳しいキリスト教の内容を学ぶ学生を対象に開講されています。この講義では、現代社会の中でキリスト教が果たしている役割や、あるいは強く求められている責任について論じます。また今期の講義においては特に、東日本大震災と、その中で今も深刻な被害を加え続けている原発事故の状況、そして「いのち」と本来強くかかわっているキリスト教と「生命科学」という生物学的な世界の関係性の重要性についても時間を割き、論議を深めたいと考えています。この講義の中で扱う内容として、以下の4点が挙げられます。</p> <p>① キリスト教と「生命科学」の関係は、進化論論争など、キリスト教の側の問題性が目立つところがある。「生物」や「環境」について丁寧に論じつつ、キリスト教の果たすべきあり方を考える。</p> <p>② 社会の中の差別の諸問題、あるいは近代史の中での重要な問題について、キリスト教との関わりが深いいくつかの課題について取り上げる。</p> <p>③ 文学・芸術の中に見られるキリスト教の影響。</p> <p>④ キリスト教周辺の宗教の問題。特に“破壊的カルト”の危険性についての知識。</p>						
到達目標	キリスト教という、近代社会の形成の上で重要な役割を果たした一つの価値観を理解しつつ、その良い面だけでなく負の側面も合わせて客観的に理解することで、今自分の属する現代社会の把握や関わり方を見つめなおすことができると思います。						
授業計画	<p>15回の内容を示します。ただし、休講による補講の都合等によって、順番入れ替え、一部内容変更の可能性があります。その場合は毎回講義時間中にお知らせします。また、毎回の講義の最初には「文学」または「うた」について短く紹介する講義を行いません。</p> <p>第1回 生命科学とキリスト教Ⅰ 進化をめぐって  第2回 生命科学とキリスト教Ⅱ 食べることをめぐって  第3回 生命科学とキリスト教Ⅲ 新しい生命技術と生命倫理  第4回 生命科学とキリスト教Ⅳ 環境問題と生物多様性問題  第5回 生命科学とキリスト教Ⅴ ウイルスという隣人  第6回 東日本大震災・原発事故  第7回 キリスト教は性差別を克服できるか  第8回 セクシュアル・マイノリティ差別からの解放  第9回 部落差別とキリスト教社会運動  第10回 アイヌ差別との戦い  第11回 イスラム教とは  第12回 イスラム世界の絶望とキリスト教の分裂  第13回 キリスト教が反ナチス運動から学んだこと  第14回 沖縄から問われる教会  第15回 破壊的カルトについて</p> <p>この講義は全く新しい分野を含むものであり、受講生の反応を受けて内容を検討しながら進めていきたいと考えています。また自然災害をはじめ社会的に大きな事件が生じることがあれば、講義で扱う可能性もあります。そのため、場合によっては内容を大幅に変更することもあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。ただし小レポートを課すことあり。						
授業方法	講義に加え、授業時間中に小レポートを記述、提出することもあります。						
評価基準と評価方法	<p>期間を通し、100点満点での加点式で評価をおこないます。合計点が100点を超えた場合は、100点とします。なお平均点を75点程度にする必要があります。そのため受講者の不利益にならない程度で点数調整する場合があります。</p> <p>出席については、講義期間全体のうち半数の出席が必要とします（補講・試験を除く）。ただし、出席日数を点数に換算することはありません。</p> <p>Iを受講された学生は、基本的に評価の仕方が同じと考えてもらって良いと思います。</p> <p>点数内訳 ① 小レポート（5点×5 + α）  期間内に5回以上、適宜講義時間中に感想等を述べたり、課題に回答するレポートを課します。</p> <p>② 論文 または 定期試験（75点）  論文：期間内に1回、論文の課題を出します。テーマ・期限等は5月上旬ごろに示します。</p>						

<p>評価基準と 評価方法</p>	<p>定期試験：期末に試験をおこないます。問題の一部は、講義時間中に発表します。</p> <p>論文と定期試験は選択です。両方とも受けた場合は、点数の高い方を採用します。期限は論文の方が早くなる予定です。状況を見て自分で判断してください。</p> <p>③ 文献紹介（15点）</p> <p>論文と別に、課題としてあげた書籍からひとつを選び、内容および感想を記していただきます。書名・期限等は、論文と同じ時に示します。</p> <p>各課題の全部を提出する必要はありません。単位の取得のため必要な課題を自分で選択してください。ただし、論文は負担の割合が高いため、指示をきちんと守って提出すれば、あまり減点をすることはありません。提出は原則的に講義時間とします。なお、提出期限に遅れた場合は大幅に減点しますが、0点とはしません。あきらめずに努力してください。また、病気・事故等で長期欠席の場合、および災害等の被害を受けた場合は、追加の課題を出すことも含め、特別に考慮します。必要書類等を添えて申し出てください。</p>
<p>教科書</p>	<p>『聖書』（旧新約聖書）を毎回の講義に持参してください。聖書は多種類の日本語訳が発行されています。キリスト教以外の団体の発行した一部のものを除き、どの訳でもかまいません。まだ持っていない人は、『聖書・新共同訳』（日本聖書協会、旧約統編なし）を購入してください。</p>
<p>参考書</p>	<p>参考書は、講義中に必要な都度お知らせします。いずれも購入義務はありません。</p>

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-18/キリスト教学II/（キリスト教と諸宗教）						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	多元世界におけるキリスト教と諸宗教						
授業の概要	<p>20世紀後半、世界は著しく小さくなり、世界の諸宗教が相互に接する機会が非常に多くなりました。一世代前、世界の宗教は近代化・世俗化の進行と共に消滅すると考えられていましたが、21世紀の今日、世界において諸宗教の演じる役割は、良きにつけ悪しきにつけ増大しています。私たちは今や宗教的な多元世界に住んでいるのです。</p> <p>キリスト教はイエス・キリストこそが救いに至る唯一の道であり、イエス・キリストを信じる信仰によってのみ人は救われると教えてきました。しかし、今日の状況にはこのような伝統的な理解では対応しきれず、他宗教をいかに理解し、いかに共存していくかを問うことがキリスト教にとっても大きな課題となっています。「諸宗教の理解なしに真のキリスト教理解はありえない」とさえ言われるほどです。本講座では、このような問題意識に基づいて、キリスト教と諸宗教の関わりを様々な角度から考察し、その両者についての理解の深めていきたいと思えます。</p> <p>特に、イスラム教とヒンドゥー教を例として取り上げますが、これらはキリスト教と共に信徒数の点で世界の三大宗教をなしており、キリスト教とも長い関わりをもっています。これらを学ぶことを通して、私たちの生きる「地球村」に対する理解を深めることもこの講座の目的です。</p>						
到達目標	キリスト教の宗教理解を知ると同時に、他の世界宗教との対比においてキリスト教の特質についての理解を深めること。また、キリスト教以外の諸宗教に関する基本的な知識を習得すること。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 世界の諸宗教  第3回 日本人の宗教性とキリスト教  第4回 旧新約聖書の信仰（1）  第5回 旧新約聖書の信仰（2）  第6回 旧新約聖書の信仰（3）  第7回 イスラム教（1）  第8回 イスラム教（2）  第9回 イスラム教とキリスト教：比較、歴史的関係など  第10回 ヒンドゥー教（1）  第11回 ヒンドゥー教（2）  第12回 インド宗教としての仏教  第13回 近代インドにおけるヒンドゥー教とキリスト教  第14回 現代キリスト教と諸宗教  第15回 まとめ（レポート提出ないし試験実施日）</p> <p>※以上は計画ですので、変更となる可能性もあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。ただし、復習をしっかりと行うこと。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	小レポート、期末レポート、平常点により評価します（小レポート10%、期末レポート60%、平常点30%の予定）。欠席・遅刻は減点の対象とし、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。詳しくは初回の授業で説明します。						
教科書	特にありません。						
参考書	<p>旧新約聖書  『コーラン』（岩波文庫版、全3巻）  『バガヴァッド・ギーター』（岩波文庫版）  M. B. ワング『ヒンドゥー教』（青土社）  M. S. ゴードン『イスラム教』（青土社）</p>						

参考書	その他、必要に応じて紹介します。
-----	------------------

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-4/キリスト教学II/（聖書）						
担当教員	木原 桂二						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	新約聖書の思想						
授業の概要	<p>「新約聖書」は、27冊の書物の集合体です。イエスによって証しされた「福音」が共通の基盤になってはいませんが、各書物の著者は、様々な地域や民族の出身者であり、それぞれが独自の思想を持っています。また、私たちは異なる文化が背景にあるため、その内容を理解するためには乗り越えるべき高いハードルがあります。そこで本授業では、新約聖書を少しでも身近に感じ、その思想を生かすことができるように聖書本文とその背景についての学びを深めていきます。</p>						
到達目標	<p>文化や言葉の壁を乗り越えて新約聖書の思想に向き合えるようになると、その奥底にある人間理解の豊かさに触れることができます。本授業では、それを到達目標としますが、可能な限り現代人である私たちの生き方の参考になる手がかりを得られるようにします。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の目的と概要、評価基準、レポートについての説明 （入門）新約聖書とは何か？—ユダヤ教からキリスト教へ 第2回 イエスの言行録①—共観福音書（マタイ・マルコ・ルカ）のイエス像 第3回 イエスの言行録②—ヨハネ福音書のイエス像 第4回 使徒言行録—イエス以後（使徒たちの時代）の思想と信仰 第5回 伝道者パウロ—劇的な回心を遂げた福音の宣教者 第6回 新約聖書の思想イエス編①—エゴイズム 第7回 新約聖書の思想イエス編②—財産所有 第8回 新約聖書の思想イエス編③—隣人愛 第9回 新約聖書の思想イエス編④—暴力と平和 第10回 新約聖書の思想イエス編⑤—差別と和解 第11回 新約聖書の思想イエス編⑥—罪と赦し 第12回 新約聖書の思想イエス編⑦—子どもの人権 第13回 新約聖書の思想パウロ編①—人間の限界 第14回 新約聖書の思想パウロ編②—共同体（共に生きる集り） 第15回 まとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>多くの学生は新約聖書に触れる機会が少なく、授業で取り扱える範囲も限られます。そこで、まずは時間の許される限り聖書本文（日本語訳）を読み、疑問に思うことを書き留めるようにして下さい。それを講師に質問して頂ければ、授業に関連つける形で応答したいと考えています。（質問内容は、下記「評価方法」に記載されている授業内小レポートに記述して頂きます。）</p>						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	<p>①レポート評価 70%。 ②他に、不定期で授業内小レポートの提出を求め、これと合わせる形で出席状況等の総合的評価を30%とします。</p>						
教科書	<p>1. 『聖書』 ※翻訳は問いません。ご自分の聖書をお持ち下さい。 2. 毎回授業時にプリント（レジュメ）を配布し、そのレジュメに基づいて授業を進めます。</p>						
参考書	必要に応じて授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-5／キリスト教学II／（聖書）						
担当教員	勝村 弘也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	旧約の預言者の生涯と思想						
授業の概要	旧約聖書から特にアモス以後の預言者の思想について論じる。預言者の思想は、歴史とのつながりなしには論じることができないので、最初に古代イスラエル史を概観する。その後で、紀元前8世紀後半に活動したアモス、ホセア、イザヤの預言活動について論じる。つづいてバビロン捕囚の直前に活動したエレミヤの思想について論じる。						
到達目標	聖書の預言者の思想にふれることによって、現代における社会正義の問題をみる目を養う。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 旧約の内容概観、古代イスラエル史概観</li> <li>2) 紀元前8世紀のオリエント世界、アッシリアの勃興</li> <li>3) 古代イスラエルの社会、アモスの登場した時代</li> <li>4) アモス書を読む（1）預言書はどのようにして成立したか</li> <li>5) アモス書を読む（2）</li> <li>6) ホセア書を読む（1）</li> <li>7) ホセア書を読む（2）</li> <li>8) イザヤ書概観</li> <li>9) 預言者イザヤの活動（1）</li> <li>10) 預言者イザヤの活動（2）</li> <li>11) メシア預言とキリスト教</li> <li>12) 紀元前7－6世紀のユダ王国の歴史</li> <li>13) 預言者エレミヤの活動</li> <li>14) 預言者エレミヤの思想</li> <li>15) 試験とまとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で取り上げる聖書の箇所を繰り返し読むこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点40%（小レポートを含む）、筆記試験60%。ただし、優秀な小レポートに関しては、加点することがある。						
教科書	聖書。1回生で使用したものと同一でよい。						
参考書							

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-6／キリスト教学II／（聖書）						
担当教員	宮田 玲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	モーセ五書を学ぶ						
授業の概要	モーセ五書とは、旧約聖書の最初の五つの文書、「創世記」、「出エジプト記」、「レビ記」、「民数記」、「申命記」のことです。これらは旧約聖書の基本的な文書であり、わたしたちにもよく知られている物語を多く含んでいます。この授業では、モーセ五書を中心として、旧約聖書についての理解を深めたいと思います。特に創世記から、いくつかの物語を取り上げて、これまでどのように読まれてきたかを紹介していきます。						
到達目標	旧約聖書の中で主要な位置を占めるモーセ五書について、基本的な事柄を知ることができるようになります。また、書かれている内容や物語に親しく触れることができるようになります。ひいては、新約聖書を、旧約聖書との係わりから眺める見方への手がかりを得られるように目指します。						
授業計画	第1回 旧約聖書の舞台とモーセ五書 第2回 モーセ五書の成り立ち 第3回 物語（1） アダムとイブの物語 第4回 物語（2） バベルの塔の物語 第5回 物語（3） アブラハムとサラの物語 第6回 物語（4） サラとハガルをめぐる 第7回 物語（5） 小テスト・イサク奉獻 第8回 物語（6） イサクとリベカ 第9回 物語（7） ヤコブとエサウ 第10回 物語（8） ヤコブの夢 第11回 物語（9） 出エジプト：モーセ 第12回 物語（10） 出エジプト：エジプトから荒野へ 第13回 物語（11） 十戒 第14回 物語（12） カナンへ：モーセの死 第15回 質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回の授業の内容を復習してきてください。 授業後学習：授業時に配布するプリントに授業内容の要点をまとめておいてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験 60%、平常点 40%（小テストを含みます）						
教科書	指定しません。						
参考書	並木浩一・荒井章三（編）『旧約聖書を学ぶ人のために』 世界思想社 ISBN978-4-7907-1556-6 石川立・中村信博・越後屋朗（編）『聖書 語りの風景』 キリスト新聞社 ISBN4-87395-476-2						



科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-7/キリスト教と文化2/（キリスト教思想）						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	ドストエフスキーとキリスト教						
授業の概要	ドストエフスキーは、ロシアのみならず近代ヨーロッパを代表するキリスト教作家で、その作品群は、神・自由・悪といった人間にとって重要な問題を扱っています。それはキリスト教の根幹に関わる神学的問いであると同時に、人間の本質に迫る普遍的な問いでもあり、それゆえ、彼の作品は時代や場所を超えて、今日に至るまで広く読まれ続けています。本講義では、最初にロシア社会とロシア・キリスト教の特徴、ドストエフスキーの生涯を概観し、次に『地下室の手記』『罪と罰』を取り上げ、これらの作品においてキリスト教的なモチーフがどのように扱われているかを検討します。『白痴』『悪霊』『カラマーゾフの兄弟』などの他の主要作品にも短く言及するつもりです。こうして、ドストエフスキーという人と作品におけるキリスト教に光を当てつつ、キリスト教信仰の現代的意義について考察することが本講義の目的です。						
到達目標	ドストエフスキーの全てがわかるようになるとは決して言いません。大変深遠な作家ですから。しかし、通常は見落としがちな彼の作品の神学的側面に焦点を当てますので、より深いドストエフスキー理解のために役立つこと間違いなしです。また、ロシアのキリスト教に対する基本的な知識も得ることができます。						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 ドストエフスキーという人 第3回 ロシアという国：古代から中世まで 第4回 ペテルブルグ時代のロシア 第5回 ロシア正教とドストエフスキー 第6回 「地下室の手記」：近代合理主義批判 第7回 「地下室の手記」：被造物としての人間 第8回 「罪と罰」：作品概観 第9回 「罪と罰」：反逆する近代人 第10回 「罪と罰」：ロシア民衆の神学 第11回 「罪と罰」：インマヌエルなる神の知恵 第12回 「罪と罰」：苦悩から復活へ 第13回 「白痴」：キリストは失敗か？ 第14回 「悪霊」と「カラマーゾフ」 第15回 まとめ：キリスト教の現代的意義  ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	『地下室の手記』および『罪と罰』の通読。それぞれに対してレポートを書いてもらいます。また、たびたび聖書に言及しますので、各自、関連箇所を熟読玩味して下さい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小レポート、期末レポート、平常点により評価します（小レポート10%、期末レポート60%、平常点30%の予定）。欠席・遅刻は減点の対象とし、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	ドストエフスキー 著「地下室の手記」（新潮文庫）（新潮社） ドストエフスキー 著「罪と罰」（新潮文庫）（新潮社） ★通読してレポートを書いてもらいます。必ず、購入するように。						
参考書	旧新約聖書（★指示ある場合は、授業に持参すること） ドストエフスキー著「白痴」「悪霊」「カラマーゾフの兄弟」（翻訳者・出版社は不問） セルノーフ著「ロシア正教会の歴史」（日本キリスト教団出版局） その他、必要に応じて紹介します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-8／キリスト教と文化3／（キリスト教思想）						
担当教員	狭間 芳樹						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	近現代日本文学とキリスト教						
授業の概要	本講義ではまず、「信徒発見」で知られるパリ外国宣教会司祭B. T. プティジャン（1829 -1884）やM. M. ド・ロ（1840-1914）らによる宣教と社会福祉活動といった開国以後のキリスト教史について概観するとともに、キリスト教がその後の日本文化や文学にどのような影響を与えたのかについて学ぶ。そして次に、明治から現代までのキリスト教作家やキリスト教をモチーフにした文学作品（主にベストセラー小説）を取り上げて紹介し、それらを手がかりとして日本のキリスト教思想と文学との関わりについて考察していく。						
到達目標	近現代日本の文学作品に見られるキリスト教思想の影響を学び、分析することにより、日本の文化とキリスト教との関わりについての理解を深めることが受講者各人の到達目標となる。						
授業計画	以下のテーマを中心に授業を進めていくが、アンケート等を適宜実施し、受講者各人の主体的関心にも配慮して授業を進めたい。 第1回 オリエンテーション / はじめに——キリスト教文学とは何か—— 第2回 明治開国とキリスト教——プティジャン、ド・ロ神父の生涯と社会福祉活動—— 第3回 明治期日本の文化とキリスト教文学 第4回 芥川龍之介『奉教人の死』（1918年）——キリスト教と聖人伝—— 第5回 明治期文学者の倫理観とキリスト教 第6回 第5回までの講義のまとめと質疑応答 / 小レポートの作成 第7回 島崎藤村『桜の実の熟する時』（1919年）——罪と贖い—— 第8回 自然主義文学の興隆と衰退に見る信仰の問題 第9回 堀辰雄『風立ちぬ』（1938年）——幸福感と虚無感—— 第10回 キリスト教文学における死と生 第11回 三浦綾子『氷点』（1965年）——原罪と赦し—— 第12回 現代日本文学に占めるキリスト教の位置 第13回 遠藤周作『沈黙』（1966年）——信仰告白と殉教—— 第14回 日本におけるキリスト教受容と土着化 第15回 まとめ——近現代日本文学におけるキリスト教信仰の意義——						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げる文学作品（本シラバスに挙げた小説）のなかで興味を持ってそうなものを各自ピックアップし、図書館で閲覧するなどして、事前に一読しておくことを勧めます。						
授業方法	・講義 ・授業理解の一助となるよう、映像（映画の鑑賞など）も適宜採り入れる予定である。						
評価基準と評価方法	学期末に提出するレポート……60%、 平常点（感想文および出席など授業に対する積極的な取り組み）……40%						
教科書	・教科書は使用しない。 ・講義テーマ毎に、レジュメおよび資料プリントを配布する。						
参考書	講義テーマに沿った参考文献を随時紹介していく予定であるが、とりわけ本講義全体に関わる概説書を以下に挙げておくので本学図書館で閲覧するなどして講義内容の理解に役立てて欲しい。 ・安森敏隆ほか編『キリスト教文学を学ぶ人のために』世界思想社、2002年。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教学II-9/キリスト教史I/（歴史と文化）						
担当教員	宮本 憲						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	英国キリスト教史						
授業の概要	本講座では、古代から宗教改革期に至までの英国のキリスト教の歴史を学びます。その際、「英国＝イングランド」という誤解を避け、多民族国家としての英国に着目し、その主要2民族であるイングランド人とスコットランド人の教会がたどった歴史的な道のりを、相互に対比させながら概観していきます。それを通して、この2つの地域にどうして異なるタイプのキリスト教（アングリカンと長老教会）が成立するに至ったかを考えます。						
到達目標	キリスト教といっても戸惑いを起こさせるほどに多様です。本講座の目標は、英国キリスト教に関する基本的な知識を習得すると共に、これを通して、キリスト教の多様性を複眼的に見る目を養い、その由来についての理解を深めることにあります。						
授業計画	第1回 はじめに：キリスト教の伝播と変容 第2回 イングランドとスコットランド 第3回 ローマ帝国教会とイギリス 第4回 ケルト人とキリスト教 第5回 聖オーガスティンのイングランド宣教 第6回 ホイットビー教会会議とアングロサクソンのキリスト教 第7回 中世イングランドとキリスト教 第8回 中世スコットランドとキリスト教 第9回 宗教改革の暁の星：ジョン・ウィクリフ 第10回 宗教改革概観 第11回 イングランド宗教改革（1）：イングランド教会の独立 第12回 イングランド宗教改革（2）：アングリカニズムの確立 第13回 スコットランド宗教改革 第14回 スコットランド長老主義の確立と主教派教会（聖公会） 第15回 その後の英国キリスト教  ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。ただし、復習をしっかりと行うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小レポート、期末レポート、平常点により評価します（小レポート10%、期末レポート60%、平常点30%の予定）。欠席・遅刻は減点の対象とし、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。						
教科書	特にありません。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（キリスト教学系列）						
科目名	キリスト教礼拝学						
担当教員	勝村 弘也・宮本 憲・藤井 尚人						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	古代から現代までの礼拝の歴史						
授業の概要	キリスト教会における礼拝の歴史を概観しながら、礼拝とはどのような行為であるのかを考える。また、聖公会の礼拝暦と「祈禱書」の内容について学ぶ。この科目は、「礼拝」について自覚的・批判的に考察することを目的とするものであるから、キリスト教会の礼拝に関する経験が前提となっている。						
到達目標	キリスト教会における礼拝に参加する者に必要な基礎知識を身につけるとともに、神に祈る心を養う。						
授業計画	<p>1) -3) 5) と 15) の担当者は勝村。  4) と 6) -8) の担当者は宮本（憲）。</p> <p>1) オリエンテーション。礼拝とはどのような行為か。  2) 古代イスラエルにおける礼拝  3) ユダヤ教の祭礼と礼拝  4) キリスト教における祈りと礼拝  5) 新約聖書から知られる初代教会の礼拝  6) 中世キリスト教会における礼拝の歴史  7) カトリック教会におけるミサの構造  8) モーツァルト「戴冠ミサ曲」を聴く（見る）  9) -14) の担当者は藤井。  9) 教会暦について  10) 朝夕の礼拝について  11) 聖餐式（ミサ）について（1）  12) 聖餐式（ミサ）について（2）  13) 聖餐式（ミサ）について（3）  14) 聖餐式（ミサ）について（4）  15) まとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	学期中に最低2回は、キリスト教会の聖日礼拝に参列すること（教派は問わない）。「祈禱書」「聖歌集」の関連項目を見ておくこと。						
授業方法	基本的に講義形式であるが、適宜演習形式を加える。						
評価基準と評価方法	3名の担当者によって課されるレポートによる。以下に目安を示す。勝村担当分25パーセント。宮本担当分25パーセント。藤井担当分50パーセント。						
教科書							
参考書	旧新約聖書 「日本聖公会 祈禱書」（1990年）、「日本聖公会 聖歌集」（2006年）						